

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 6月22日更新

事務事業名		三つの木の家利用促進事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連						
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	岐部則夫		
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	石田祐介		
	施策の柱	66	学習の啓発				所属班	生涯学習班	(内線)	1516		
予算科目		会計一般	款10	項5	目5	事業連番10792	根拠法令	合志市三つの木の家設置条例			成果優先度評価結果	③
											コスト削減優先度評価結果	⑪
終了、開始年度		☒ 27年度で終了 ☐ 27年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)					

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	平成11年に学校教育施設から社会教育施設へと移管された際に、三つの木の家の一般利用の促進と生涯学習推進のために開始され、指導員を1名配置し、各種団体への利用促進PR(様々なイベントの企画等)を行う。
【業務の流れ】	三つの木の家指導員により、学校をはじめ各種団体に対する施設の設立理念の説明や、様々な事業を通じて利用促進PRを行う。
【主な予算費目】	報酬(三つの木の家指導員分)
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動) (DO)		28年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
三つの木の家指導員(1名)の配置		次年度三つの木の家社会教育活動支援事業(事業連番10765)へ統合する為なし。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア:指導・助言のための勤務日数	日	三つの木の家社会教育活動支援事業(事業連番10765)へ事業統合に伴う減額
⇒ イ:		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
取り組んでいない市民		⇒ ア:人口
		⇒ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
学習に取り組むことの必要性を認識でき、施設や学習内容を知ることができる。		⇒ ア:学習に取り組んでいないが今後取り組んでみたいと思う市民の割合 %
		⇒ イ:
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
社会教育施設である三つの木の家の利用促進を行うことで、学習に取り組んでみたいと思う市民が増加すると考えられるため。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	25年度 実績(決算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	日	180	180	180	0				
	イ									
② 対象指標	ア	人	58,237	59,067	59,500	0				
	イ									
③ 成果指標	ア	%	58.8	59.5	66	60				
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,688	1,688	1,689	1,688			
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	1,688	1,688	1,689	1,688			
		(A)のうち指定経費	千円	1,688	1,688	1,689	1,688			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
		(A)のうち臨時職員	千円	0	0	0	0			
人件 費	正 規 職 員	正職員従事人数	人	1	2	1	0			
		延べ業務時間	時間	100	40	30	0			
	(B) 人件費計	(B) 人件費計	千円	398	159	119	0			
トータルコスト(A)+(B)			千円	2,086	1,847	1,808	1,688			

事務事業名	三つの木の家利用促進事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は27年度の後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 利用促進のPR不足等の原因が考えられる。今後PR方法の工夫が必要。
	②28年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 次年度三つの木の家社会教育活動支援事業（事業連番10765）へ統合する為なし。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 次年度三つの木の家社会教育活動支援事業（事業連番10765）へ統合する為なし。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 次年度より三つの木の家社会教育活動支援事業（事業連番10765）へ統合するため、これ以上の統廃合はできない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は指導員報酬のみで削減は難しい。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 正職員の関与は最小限であり、削減は困難である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民全てに施設の利用促進をPRする事業であり、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（CHECK）

今年度も利用者数が増加したが、今後は三つの木の家社会教育活動支援事業（事業連番10765）と統合し、さらなる利用促進を図る。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												